

(現状と課題に関する意見)

・環境については、指標生物の生息変化を見ていくことが大事だと思います。東海豪雨で人間も干潟の生物も被害を受けたので、このような災害を防ぐための取り得る手段や、干潟への土砂供給の観点から砂防ダムの状況や、露堤など庄内川における伝統治水工法の実態について説明していただきたいです。



辻委員

(委員長意見)

1. もともとの流域が持っている自然というものがどのようなもので、それが社会的にどのように変化してきたかということを現状として認識すること。
  2. 治水、利水の問題としてどのようなものがあるか。
  3. 水質と自然環境と利用の仕方はどうか。
- という問題点が挙げられます。その他に、支川の状況とポンプに関する問題や情報というような点についても重要な問題点であると思います。今後議論の対象を詳細化していきたいです。



辻本委員長

次回の予定について

平成15年9月上旬開催予定です。

「課題の総括整理と情報の共有化」を議題とする予定です。

編集後記

第2回の流域委員会では、各委員から活発な意見が出され、予定されていた委員会の時間が短く感じた。委員の顔が見える情報発信ということでこの通信が作成されたが、通信を通して会議の内容のみならずその雰囲気を読者に伝われば幸いである。(副委員長 松尾 直規)

土岐川庄内川流域委員会委員名簿

氏名	所属等	氏名	所属等
向部 和俊	愛知教育大学教育学部 教授	柴田 充雄	王子製紙株式会社春日井工場 業務部長
石川 和紀	社団法人愛知県農林公社 理事長	辻 淳夫	藤前干潟を守る会 代表
石田 繪美子	(名古屋市東区在住)	◎ 辻本 智郎	名古屋大学大学院工学研究科 教授
内田 和子	岡山大学文学部 教授	寺本 和子	豊橋創造大学短期学部 教授
小笠原 昭夫	愛知女子短期大学 講師	富永 晃宏	名古屋工業大学工学部 教授
片田 敏孝	群馬大学工学部 助教授	原田 守博	名城大学理工学部 教授
小沢 利治	京都大学防災研究所 教授	○ 松尾 直規	中部大学工学部 教授
小菅 俊洋	(愛知県西枇杷島町在住)		

◎：委員長 ○：副委員長 ※敬称略 五十音順

土岐川庄内川流域委員会に関して詳しく知りたい方は、庄内川河川事務所ホームページをご覧ください。これまでの経緯や、会議資料、議事抄録等を掲載しています。



土岐川庄内川流域委員会通信

VOL.1

監修/土岐川庄内川流域委員会  
発行/土岐川庄内川流域委員会事務局  
国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所  
462-0052 名古屋市北区福徳町5-52  
TEL 052-914-6711

ホームページ ● <http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/>  
メールアドレス ● [shonai@cbr.mlit.go.jp](mailto:shonai@cbr.mlit.go.jp)

土岐川庄内川流域委員会通信



VOL.1

発行日：平成15年7月1日

土岐川庄内川流域委員会の議事内容と、関連情報をお知らせしていきます。

第2回 土岐川庄内川流域委員会が開催されました

開催日時

平成15年6月5日(木)  
13:00~15:00

会場

名古屋通信会館 3F桐楓の間



委員会の様子

◇第2回土岐川庄内川流域委員会審議内容

○流域委員会の運営について

情報公開、傍聴の方法について確認されました。傍聴者は委員会に対して「委員会意見シート」により意見を述べるできるようになりました。また、辻本委員長からの発議により副委員長を設置することになり、松尾委員が指名され就任されました。

(情報公開に関する意見)

・情報公開の中の(記録)の項を追加したことに対して、十分なものを用意していただいたと認めて大変満足しています。



寺本委員

(傍聴者からの意見を聞くことに関する意見)

・意見シートのような用紙で出すことには賛成です。ただ、委員への配布は意見が出たらその都度配るのではなく、会議終了後に配ってもらったほうがいいと思います。



辻委員